

# 設楽ダムを止め、みどりの森の水源をつくろう！

## 1 設楽ダムは全国初の異常な計画

6000万 m<sup>3</sup> / 9200万 m<sup>3</sup> 65% 不特定

設楽ダム計画では有効貯水容量(総貯水容量 9800万 m<sup>3</sup> から堆砂容量を差し引いた値) 9200万 m<sup>3</sup> の65%に当たる6000万 m<sup>3</sup> が、不特定(流水正常機能維持)容量とされています。最大の目的が不特定というのは全国のダムで初めてです。

この6000万 m<sup>3</sup>を何に使うのかというと、豊川用水への取水で減った宇連川の一部区間や豊川下流の流量を若干増やすためだとされています。これまで、河川事業によって壊されずに無傷できた自然豊かな寒狭川上流部に、河川環境改善を掲げて巨大ダムを造り、著しい自然環境の破壊をすることは、本末転倒もはなはだしいものです。

## 2 水は足りています

平成13年度に完成した豊川総合用水事業で、以前の豊川用水に比べて約5割増の取水

ができるようになり、約3億8千万 m<sup>3</sup>を確保できました。その結果、現在はおよそ1億 m<sup>3</sup>を超える供給余力ができました。

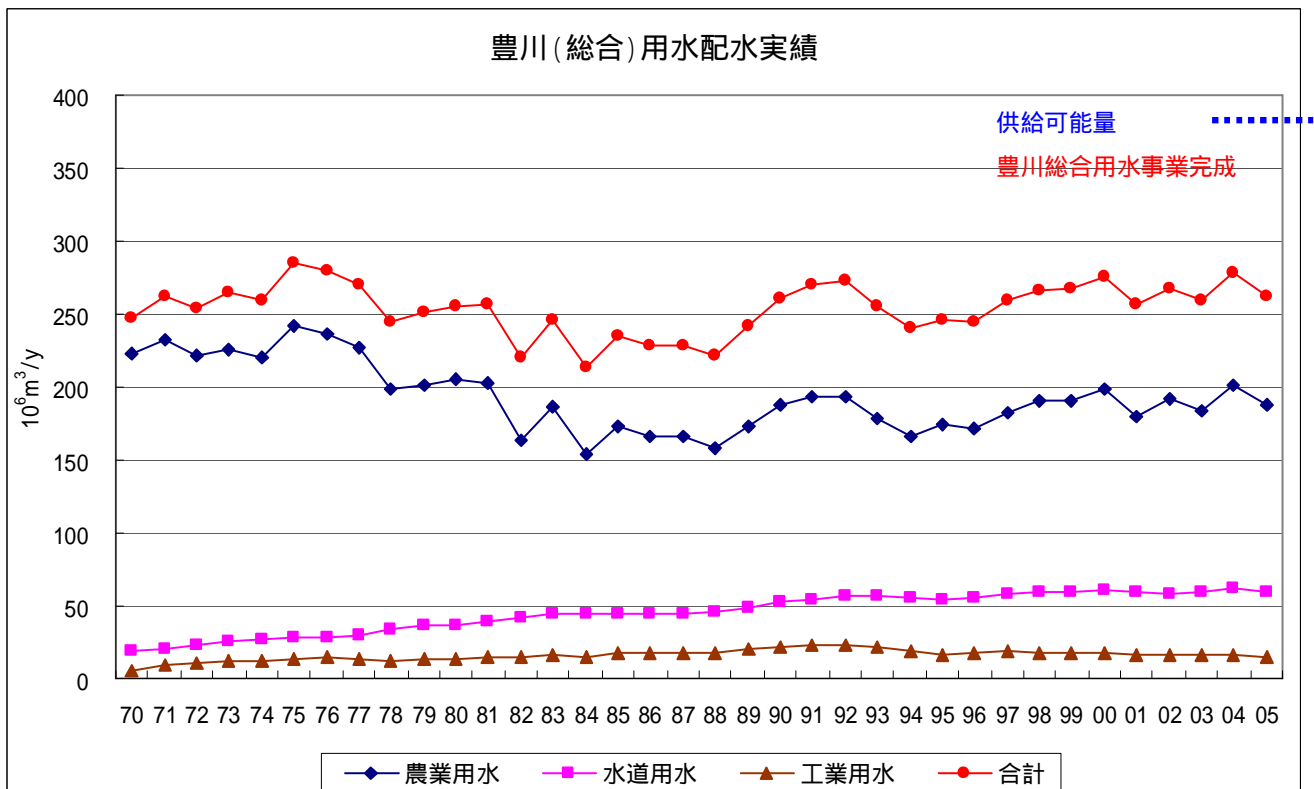
2006年2月の豊川水系フルプラン変更時の検討資料を見ますと、豊川用水・総合用水の水供給の態勢は十分整っていて、新規水資源開発の必要はないことが明らかです。農業用水に関しても、圃場面積は減っており、施設栽培の節水技術も進んでいますから、今後需要は伸びるどころか減るものと推定できます。



(大島ダム、2001年度 総合用水事業完成)

設楽ダムは、水道用水約500万 m<sup>3</sup>、および農水約800万 m<sup>3</sup>、計1300万 m<sup>3</sup>の新規利水容量を目的に掲げていますが、必要ありません。

(水資源機構・東海農政局資料に基づいて作成)



### 3 渇水の備えはできています

この6000万 m<sup>3</sup>は、渇水時には豊川用水への利水に使うとされています。当地域が観測史上1番の少雨年であった2005年の経験では、節水の呼びかけと、わずかの日数の給水圧調節のみで、被害は全くありませんでした。総合用水事業が完成した2002年度以後、設楽ダム建設目的である10年に1度程度の渇水への対応は、既にできています。設楽ダムで、水を溜める必要はありません。(気象庁がホームページで公表している降水量によります。名古屋は115年余の観測記録中で2005年が最小の降水量です。)

年降水量 mm (欠測あり)				
年	名古屋	伊良湖	作手	鳳来/新城
76	2029	1802	3246)	
77	1367	1326	2031)	
78	1104	1074	1802	
79	1527	1928	2574	2039)
80	1727	1237	2386	2218
81	1525	1578	1989	2049
82	1601	2339	3034	2854
83	1628	1515	2659	2426
84	1105	1069	1498	1364
85	1590	1688	2598	2219
86	1350	1419	1958	1897
87	1235	1126	1975	1941)
88	1590	1562	2326	1893
89	1644	1856	2760	2536
90	1904	1900	3008	2541
91	1990	1908	2499	2102)
92	1414	1788	2181	2080
93	1727	1596	2497	2076
94	1061	1189	1830	1748)
95	1393	1590	2188	1653
96	1157	1295	1876	1627
97	1610	1462	2377	1649
98	1980	2194	3254	2845
99	1629	1639	2539	2055
00	1736	1466	2525	2136
01	1415	1659	2029	1817
02	1083	1206	1731	1415)
03	1905	1865	2873	2279
04	1948	1894	2883	2069
05	901	1027	1406	1249
06	1612	1669	2626	2023

2005年は第1番の渇水年、気象庁アメダスデータより

### 4 ダムは清流・寒狭川を破壊します

設楽ダムはムカシトンボ、サンショウウオ、ネコギギ、クマタカなどの棲みかを壊し、アユやアマゴが釣れる愛知県一の清流を台無しにします。ダム湖に沈む地区に絶滅危惧種で大型の猛禽クマタカの繁殖縄張りがかかっています。



(設楽ダム予定地付近を飛ぶクマタカ、大羽さん提供)

清流に生きるネコギギは溜まり水のダム湖では生きられません。ダム下流は、ほとんど洪水が発生しない川となり、石の隙間に土砂が詰まって川虫も稚魚も棲みかを失います。アユが食む石の表面に生える珪藻も、洪水で石が洗われなくなれば育ちません。

ダム湖の水は富栄養化して濁ります。清流・寒狭川は、濁った水が、ちよるちよる流れる用水路のようになってしまうでしょう。

寒狭川は天然記念物で絶滅危惧種のネコギギの愛知県下最大の棲息地です。伊勢・三河湾に流れ込む川の上流域のみに棲むこの地域の固有種で、流域の宝物です。



(固有種ネコギギは夜行性、伊奈紘さん提供)

大きな河川工事がなく、豊かな自然が維持

されてきた寒狭川流域の自然を保全することは、次世代へ大切な財産を残すことになります。オシドリ、ヤマセミ、カワガラス、トモエガモ、カワネズミ、カジカガエルなど、自然豊かな川筋にしか棲めない生き物が棲む清流を破壊してはなりません。

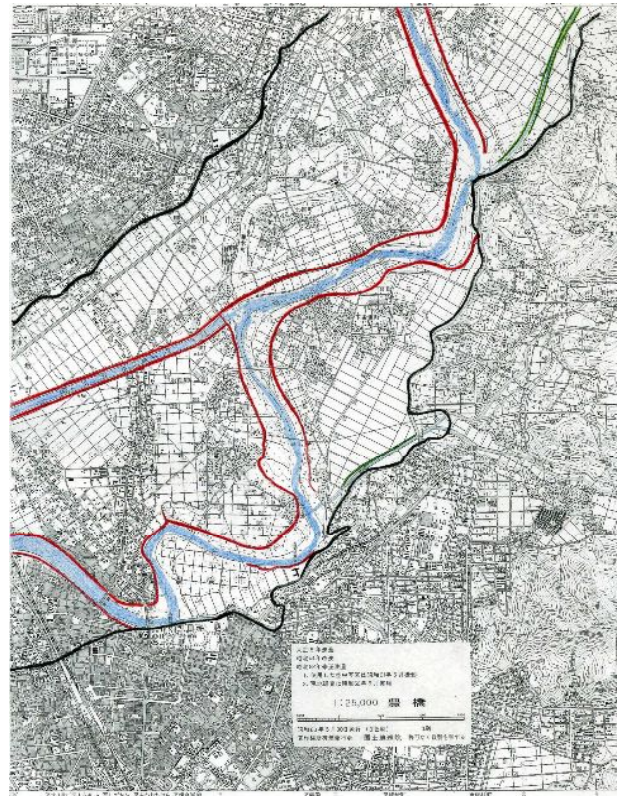


(田峯のオシドリ、伊藤仙二さん提供)

## 5 設楽ダムで水害はなくなりません

設楽ダムがカバーする集水面積は62 km<sup>2</sup>で、わずか11% (新城市石田地点の集水域に対する比率) をカバーするのみですから、89%の洪水調節はなされません。したがって、下流の水害は設楽ダムができてもなくありません。既設の利水ダム、宇連ダムと大島ダムは洪水調節能力がありません。1965年に豊川放水路が完成して豊川流域の水害は軽減されましたが、経験を超えるような大雨が降った場合にも、人命に関わる被害を出さないようにすることが大事です。右岸側は堤防締め切り後、低地部分の開発が進んで住宅も増えてきています。堤防の高さを越える大洪水が発生して、破堤した場合には、甚大な被害がでる恐れがあります。下流低地の水害をなくすには、ダムに頼るのではなく、森林や水田の保全、堤防の整備強化、不連続堤・遊水地の活用、水害危険度の高い低地の開発規制など、流域全体で総合的に取り組んでこそ、水害を減らせます。

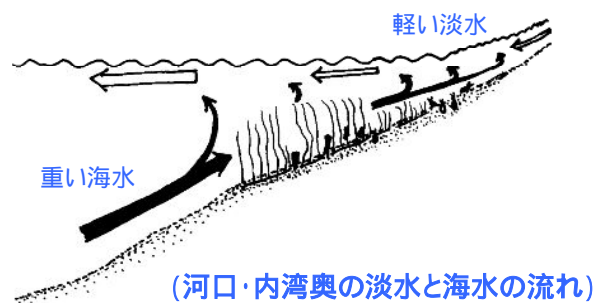
豊川下流に残る不連続堤・遊水地(「霞堤」)はこの地域の貴重な文化遺産でもあり、有効活用することは他の河川流域の人々にも参考にしていただけるはずです。



(豊川下流部左岸の不連続堤・遊水地、洪水の際に浸水が始まる差し口付近には住宅などはできていません)

## 6 ダムは三河湾の汚濁を強めます

ダムによる新規利水は、豊川河口から三河湾奥に注ぐ淡水量を減らすので、河口・内湾の特徴的な鉛直循環流(エスチュアリー循環)を弱めます。その結果、河口干潟や藻場の生物生産が弱まり、魚介類の生産が衰えます。また、外海水を呼び込む力も弱まるので、海水交換が衰え、三河湾の汚れはひどくなります。



ダム湖に溜まるヘドロは、大雨時に一気に三河湾まで流下して、水質・底質の悪化を招きます。

海の浅場は海底まで十分な日照があるので、藻場ができ、珪藻などの付着藻類も増えます。アマモや珪藻が、魚介類の餌となり、さらには多くの水鳥や大型の動物を育てます。

ダム湖の堆砂が進むと、土砂供給が断たれて浅場が浸食され、生物が生活する基盤が失われてしまいます。既存の宇連ダム、大島ダムも土砂を止めていますから、設楽ダムができれば、海の生物に大きな影響が及びます。



(豊川河口付近に広がる砂質干潟、六条潟)

## 7 ダムは過疎に拍車をかけます

ダムができると確実に人口の流出が進み、設楽町・奥三河のみならず、豊川流域圏の持続的発展に障害をもたらします。

100軒を越す水没予定住民が設楽町から出て行く可能性があります。ダム湖によって孤立してしまう集落から、立ち去らざるを得なくなる住民も出てくるでしょう。



(水没予定の大名倉集落)

生まれ育ったふるさとを捨てて出て行くことは、大変なことです。水源地域の山地に人が住まなくなれば、山林の手入れも困難になり、山林は荒れます。ダムづくりではなく、森林や

溪流とともに生活できる「村おこし」に流域全体で支援することこそ必要です。上流の山林が保全されなければ、大雨による山腹崩壊、下流域では大きな水害の発生が起きることになるでしょう。良質で豊富な水資源を確保することも難しくなります。

設楽町田口をはじめ、残存する地区にもダム建設とダム湖の出現は災害の恐れを含めて、深刻な影響を及ぼします。

## 8 みどり豊かな水源の森創りを！

ダム建設は、数千億円 of 多大な建設費用を要し、そのおよそ3割を愛知県が負担します。愛知県の財政は決して安泰ではありません。県営水道料金を押し上げるとともに、農業用水の賦課金にも影響がないとは考えられません。高齢社会、人口減少期を迎えて、いつまでも、無駄な巨大ハコモノ施設を造り続けるようなことをしては、健康で文化的な住民の暮らしを維持していく見通しは得られません。財政投資を抜本的に見直して、無駄を省き、時代に合ったものに転換していくことが今ほど必要な時期はありません。

豊川流域（奥三河の自然豊かな森林、ネコギギヤカジカガエルが棲み、アユやアマゴ釣りを楽しむことのできる自然豊かな寒狭川、下流部まで透明感のある清流豊川、アサリが湧くように育つ豊川河口の六条潟）そして豊かな海のめぐみを育む三河湾まで、次世代に豊かな愛知県東部の自然を残すことこそ、私たちが目指す目標です。

**巨大ダムは取り返しのつかない自然破壊を引き起こします。行政はダムが環境を壊すことを隠していますが、今こそ開発のためには環境が壊れるのもやむをえないとする考え方を根本から変える時です。**



### 設楽ダムの建設中止を求める会

代表 市野 和夫

441-1101 豊橋市賀茂町山屋敷 28-1

E-mail: [ichinok7@mx3.tees.ne.jp](mailto:ichinok7@mx3.tees.ne.jp)

事務局: 奥宮 芳子

440-0069 豊橋市御園町 1-3

Tel & Fax: 0532-54-7305